

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2779101589		
法人名	特定非営利活動法人訪問介護ほぐち		
事業所名	グループホームまつひろ		
所在地	大阪市淀川区三津屋南2-18-5		
自己評価作成日	平成 22年 1 月 25 日	評価結果市町村受理日	平成 22年 3 月 12 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2779101589&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 2 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

残された機能を尊重し、自立に向けて支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通や買い物に便利な市街地にあるグループホームでNPO法人が運営しています。この法人は近隣で訪問介護と居宅介護支援事業も行っており、法人代表を努める管理者は、長年地域の自治会班長として取り組み、地域とのつながりを深めています。理念として「入居者の安全を守り、安心できる暮らしを提供する」を掲げ、管理者と職員が方針を共有して介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。職員は利用者に優しく丁寧な雰囲気です。おいしい手作りの食事を提供しています。少人数の仲間と暮らす利用者は、和気あいあいとした家庭的な雰囲気の中で笑顔と会話がある生活をしています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に近づく様日々共有し、実践につなげている。	「入居者の安全を守り、安心できる暮らしを提供する」をホームの理念として明文化し掲示するとともに、毎週の職員ミーティングや毎日の業務を通じて方針を共有し介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。	事業理念には地域密着型サービスの意義をふまえた表現を盛り込むことが望まれます。新しい理念の作成にあたっては全職員が共有できるよう管理者と職員全員で話し合っ作成されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会に入会し、代表者が、町会の1年の行事を通じて協力している。	管理者は、長年地域の自治会班長として取り組み、地域とのつながりを深める努力をしています。利用者の中には町会出身の方もいて、夏祭りや秋祭り、もちつき等の地域の行事に参加しています。またボランティアとともに茶道や生け花、ハーモニカ、遠足等を楽しんでいます。	地域とのつきあいについてはさらに一歩踏み出して、例えば地域住民や家族に向けた介護や認知症の教室を開催したり、介護相談に応じたりするなど、事業所が地域密着型サービスとして地域福祉の拠点となり、活動や役割を担うことを検討されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	昨年は、夏祭りに、全員浴衣姿で、参加し町会の方との交流がありました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1度開き、家族、地域包括、民生委員、町会長と、話し合い問題点、課題点を話し合っている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域の民生委員、町会長の参加のもと、おおむね2ヶ月毎に開催しています。会議では事業所の運営状況や行事、利用者の生活ぶりについて説明していますが、報告事項が少なく地域との交流の深め方についても話し合いが不十分な状況です。また家族から参加を得ていない状況です。	運営推進会議にあたっては事業所での出来事や悩み、改善課題等、報告内容を充実させ参加者の意見を聞くとともに、事業所の役割や貢献についても説明し、地域との交流の深め方について話し合うことが期待されます。また全家族に参加をお願いし、議事録も送付されてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉事務所のケースワーカーと、情報や実情をやりとりしている。	区の担当職員とは相談や情報交換を実施し、サービスの質の向上に努めています。区主催の事業者連絡会やグループホーム連絡会の相互交流・見学会、職員の勉強会に参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新しく入居された方認知症の重い方がおられて、出てしまったら、戻ってこられなくなり、交通事情で安全保障の点で、今だ施錠しております。	身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関扉は施錠していますが、内鍵方式にして外出ができるようになっています。利用者の外出・帰宅願望には付き添いや見守りで対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会議で気づいた点を話し合い虐待が見逃さない様こころがけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な会議で、少しずつですが、勉強する、機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の日時を、設けて理解、納得を得られるまで、話しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設けて、意見、要望と運営推進会議の時に、意見を交し合っ運営に反映させています。	家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。家族には毎月、利用者の生活ぶりや行事での様子がわかる「まつひろだより」を送付し、職員手書きの手紙も添えて送付しています。苦情受付箱も設置しています。	家族とのコミュニケーションをさらに深めるため、サービス担当者会議や運営推進会議への参加の呼びかけや、家族同士も交流できる行事を増やす、家族アンケートを取るなど、利用者や家族が意見を表出でき機会を充実させてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1人1人が運営に責任感を持ち続けることを、会議で、話あっています。	昨年夏から全職員が参加する職員ミーティングを毎週金曜日に開催しています。このミーティングで業務の改善事項について話し合い、カンファレンスや内部研修も行っています。職員のチームワークもよく昨年全職員の協力で利用者の看取りを実施しました。また職員の資格取得の支援も行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間は、基準法に鑑み、給与は能力の発揮によって昇給をおこなっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術、知識向上の為内外の研修に参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の定期的な連絡会に参加し、勉強会にも参加させてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情の異変行動を感知し不安を取り除く手段で接しております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までと違ったサービス例えば道具の購入、通院の必要性、そのたびに家族で先ず話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の残存能力を生かし、本人、家族等で先ず話し合いをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ、その様な関係でと会議で話し合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の大切な方を、支援させてもらっていることを念頭におくことにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、ホームに来て頂けるような雰囲気作りを心掛けております。	利用者が大切にし、大事に思う馴染みの人や場所を聞き取り、記録することが不十分な状況です。	利用者の馴染みの人や場所を聞き取り、記録を積み重ね、介護計画に反映して支援することが望まれます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のプライドを尊重し、楽しく、気持ちのよい、生活を営める様、支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	郵便物が、継続して届く方もおられるので、連絡の時、体調、日常生活の様子を尋ねております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の環境は、全く異なるので、長く時間を掛けて、把握に努めております。	地域のボランティアの方が利用者とは話し、利用者が回想した昔の懐かしい思い出や希望、意向等を俳句や短歌、短文に表し、似顔絵も添えた色紙が食堂の壁に飾られています。ただホームでのアセスメントで利用者の暮らし方の希望や意向の把握が不十分で、日々の暮らしの中で利用者が語る思いの気付きの記録もできていません。	日々の暮らしの中で利用者や家族が語る希望や思いを気付きのノートに記録しその思いをケアプランに反映させ、利用者の毎日の暮らしを豊かにしてはいかでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴を参考に、急な変化を、できるだけ緩やかに、過ぎて頂く様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安全を最優先し、残存能力をできるだけ、引き出す努力をしております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な、会議で個々の計画をたて、実践できる様努力しております。	介護計画は定期的には1年毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。計画作成担当者は毎月のカンファレンスの結果や毎月のモニタリングの結果を介護計画に反映させ、サービス担当者会議を開いて見直しを行っています。しかし、モニタリングが介護計画と連動していない部分が多くあり、職員によるモニタリングも実施されていません。	モニタリングについては介護計画の項目と連動させるとともに、職員によるモニタリングの実施も望まれます。また介護計画は状態の変化がない時でも、少なくとも6ヶ月毎には見直しを行い、サービス担当者会議には家族にも参加してもらうことを検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1週間に1回の定期的な会議で共有し実践にむけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のプライドを、尊重し、取り組む努力をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会議で心身の力を発揮できることを発見しながら(例えば 掃除)支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所に開院しているかかりつけ医と常時、連携しています。	協力医療機関の医師による3ヶ月に1回の検診を受け、病気の時には往診してもらい、受診報告書ももらっています。認知症についてもかかりつけの専門医の医療を受けています。必要の都度通院介助も行っています。協力病院と連携し、急変時の対応についての体制も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と常時、連携をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	近所のかかりつけ医と常時連携をとっています。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	家族等と、事業所でできることを、十分に説明しております。	利用者が重度化した場合でも、できるだけ長くホームでの生活が継続できるよう支援するため、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、方針の共有を図っています。かかりつけ医と連携を図り、状況の変化に合わせてその都度、利用者や家族と話し合いを行い、対応していく予定です。なお、現在看取り実施の方向で体制等の検討を実施しています。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	マニュアルを作成し定期的な訓練を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近くの公園が、避難地で、地域との協力も、町会で、お願いをしております。	既に消防署の指導のもとに避難訓練を実施しましたが、近々自主避難訓練を実施する予定です。また災害に備え地域との協力体制の話し合いをしており、ホームの駐車場を避難場所として提供することにしています。備蓄については、非常持ち出し用の最低限の食料や飲料水、必需品を準備しています。	備蓄については、利用者や職員の2日分以上の食料や飲料水を備蓄することが望まれます。また夜間を想定し、地域の人々にも協力を得るなど、訓練の内容をより実践に即したものに工夫してはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは、丁寧語で、実践しております。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう職員の言葉かけや態度は明るく丁寧であり、やさしい雰囲気です。職員採用時に、個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定能力を、ひきだして、働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりと、個々のペースに合わせていけることを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、洋服等、身だしなみが、大切なのでその様に支援しております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容等工夫しながら、一緒に時間を過しています。	職員が利用者に「今日は何にしようかな」と問いかけ、買置き食材も考えながら、献立をたて調理し利用者に提供しています。変化に富んだ、野菜の多い献立になっています。食材は肉屋や八百屋や生協などから配達してもらっています。利用者は野菜の下ごしらえや食事準備、盛り付け、後片付け等、得意な作業に参加しています。食事の際は、利用者が自分の食べる分のごはんや味噌汁をよそっています。職員は利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートを行っていますが、一緒には食べず同じものを後で食べています。	職員は利用者と同じものを一緒に食べながら、楽しい会話となごやかな雰囲気作りを支援してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	野菜を多くとり、薄味で水分の補給に も気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを個々で行ってもらっ ています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	できるだけ、昼間は、パンツにしてくら い、夜間のみ、オムツを使用してもらっ ています。	排泄の記録により排泄のパターンや習 慣が把握できています。大半の利用者 は自立していますが、入居後にホーム が排泄のパターンを掴み支援すること で、排泄がほぼ自立になった利用者も います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食品を多く取り入れ、ヨー グルト等、食べ易いものも摂ってもらっ ています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせ て入浴を楽しめるように、職員の都合で 曜日や時間帯を決めてしまわずに、 個々にそった支援をしている	いまだ、スタッフの調整の都合で、週に 1度の入浴になっております。	利用者は週に1回の入浴しかできてい ない状況です。	利用者が週に3回はゆっくりと寛いで入 浴できるよう、体制整備と雰囲気作りが 望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個々の様子を観察しながら、休 息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	複数の職員の、確実な、服薬確 認を実行しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	カラオケ等気分転換を、支援し ております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るように支援している	いまだ、スタッフの都合で、近 所の散歩になっています。1年 に1度の遠足は、家族、ボラン ティアに参加してもらっています。	日常的には季節毎に花が咲く近 隣の公園に散歩にでかけ、桜 や藤の花を楽しんでいます。時 々買い物に行っています。年1 度の遠足には家族やボランティア にも参加してもらい、緑地公園 等に出かけ、利用者の楽しみ になっています。しかしながら、 利用者が外出する機会が少な くなっている状況です。	ホーム内にこもりがちな利用者 にとって、外出はストレスを発 散し五感刺激を得られる貴重 な機会です。家族やボランティ アの協力も得て、遠足や馴染 みの人・場所との出会いもで きる外出の機会を増やすこと を検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗られ妄想の方が複数おられるのでまだ支援に至っておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	できるだけ、支援しております。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく、過せるよう、毎日の掃除は、欠かせません。	1階の食堂は少し手狭ですが、雑然さの中に団らんでできる家庭的雰囲気があります。食堂には、ボランティアの方が利用者それぞれの生活歴や懐かしい思い出を織り込んで作ってくれた似顔絵付きの色紙が飾られ、季節感もあって、利用者が長時間過ごしたい居心地のよい場所になっています。2階には行事ができる、ゆったりとしたリビングがあり、ソファや畳もあって寛げる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室への促しをおこなっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の環境でなじめるよう、道具等もってきていただいています	居室には利用者が持ち込んだ好みのベッド、布団、椅子、ぬいぐるみ、家族の写真、時計、テレビ等があります。しかし、多くの居室では持ち込みの家具や馴染みの物等がほとんどなく、もの淋しい雰囲気となっています。	家族の協力も得て、使い慣れた馴染みの家具や物を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせる居室作りをホームで支援することが望まれます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内図を。分かり易く絵をいれたりして示しております。		